

「ラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ [2021年2月2日放送分・荒町／石垣町]

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 若林区の荒町商店街の中ほど。毘沙門天の向かいにあるのが、今回の辻標「荒町／石垣町」です。
- 辻標にふれる前に、毘沙門天の門前にある不思議な石柱について。仙台市制施行88周年を記念して立てられた辻標よりも、はるかに年季の入った不思議な石柱。これ、「奇縁二天石(きえんにてんせき)」といいます。幕末に立てられたようで、インターネットなどない時代、この石柱の「たづねる方」の面に依頼文を、「をしうる方」の面にそれに対する答えをそれぞれ貼る…今でいう掲示板のような役割をはたしていた石柱だそうです。
- それだけ荒町のこの場所は、賑わいのある場所だったというわけですね。
- さて。辻標に戻りまして、荒町ですね。麹の専売権を与えられた町です。伊達政宗が晩年に建てた第2の城「若林城」に伴う城下再編で、本荒町(2020年3月3日の放送分を参照)の人々が移住させられた町です。殿様の街づくりで、むりやり引っ越しなんて大変な時代ですが！また、その若林城の作事に携わった土木関係の人々が住んでいたのが辻標のもう片面の「石垣町」です。どちらの町も、若林城築城が大いに関係していたのですね。
- 〈文・佐々木淳吾〉